

施策評価シート(平成30年度)

(基本施策の大綱) 2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実

(基本施策) (1) 地域福祉力の向上

(評価担当者)

健康福祉部長 井分 信次

基本施策が目指す姿

市民が、地域での見守りや互いの支え合いの活動により、安心して生き生きと暮らしています。

関連する分野別計画

第2次亀山市地域福祉計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	亀山市ボランティアセンターの登録者数	人	751	H27	697	747				900
2	ふれあいいきいきサロン活動及び子育てサロンの設置団体数	団体	60	H27	88	99				110
3	生活保護世帯で就労能力・意欲のある者が就労・増収となった世帯の割合	%	50	H27	40	47				50以上

市民アンケート調査

項目	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1 ボランティア活動が活発に行われている	重要度	0.82	0.66	重要度、満足度ともに、前回調査からそれぞれ0.16ポイント、0.26ポイント下降している。これは、ボランティア登録者において高齢化が著しく、市内で実施されているボランティア活動自体の認知が市域全体に行き届いていないことが推測される。今後、亀山市社会福祉協議会との連携により、新たな担い手の発掘、育成を強化するとともに、ボランティアに関する情報の周知に努める必要がある。
	満足度	0.21	0.47	
2	重要度			
	満足度			
3	重要度			
	満足度			
4	重要度			
	満足度			
5	重要度			
	満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	地域共生社会の実現に向け、市と社会福祉協議会が展開する、地域における助け合い・支え合い活動のしくみづくりを全22地区の地域まちづくり協議会を訪問し、直接伝えることにより、地域福祉を支える人と組織の育成を進めた。また、市域における助け合い・支え合いのしくみづくりに向け、国の地域力強化推進事業を活用し、平成30年4月から地域福祉力強化推進事業に取り組み、同協議会にCSW(コミュニティソーシャルワーカー: 援護を必要とする方に対して、見守りや課題の発見、相談援助、必要なサービスや専門機関へのつなぎを行う。)を配置した。これらにより安心して福祉サービスを利用できる環境づくりとともに、地域での助け合い・支え合いのしくみづくりが進み出し、ちょっとした困りごとに地域で対応する組織の立ち上げや活動が始まっていることから、総合判定をBとした。
反省点・課題	
CSWの役割の一つである個別ケースの支援を展開する中で、福祉ニーズは、従来の単独機関で対応できたものから、個人のみではなく、世帯全体の支援が必要なケースが顕在化している。これらの多様化・複合化した課題に対応にできるよう、「医療、福祉、教育」などの関係機関が連携し、包括的に受け止め、支援できるような体制づくりを市が主体となって本格的に進めていく必要がある。また、ボランティアセンターにおける登録数は若干増えたものの、70歳以上が過半数を占め、高齢化が顕著であり、新たな担い手の発掘や育成に向けた取り組みを強化していく必要がある。	

今後の展開方針

CSWの個別支援により発見された困難な課題に対しては、多機関が協働し、関係部署間や相談機関同士の情報共有や世帯全体のトータルケアプランの作成などにより、相談支援包括化推進員を中心としたネットワークを活用し、相談支援の包括化に向けた体制づくりを進めていく。また、地域における課題の解決に向けた組織づくりについては、新たな財政的支援の検討など、CSWや生活支援コーディネーターと連携しながら、地域支援・しくみづくりとして協議を進め、お互いがお互いを思いやる風土を築き、安心して生き生きと暮らせるまちづくりを目指す。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		地域福祉を支える人と組織の育成					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	ボランティアセンターを設置し、ボランティアの発掘、登録、育成、コーディネート、団体活動助成等を行う社会福祉協議会に対し、財政的支援を行った。社会福祉協議会を始め、市内の各社福祉団体等が一同に会し、広く健康増進と福祉・医療等に対する理解・交流を深めるために、あいあい祭り2018を開催した。		ボランティアセンターへの登録者は、47団体747人となり、高齢化が著しい。ボランティア講座や交流会の開催により、更なるボランティアの担い手の育成や組織づくりが必要である。 総合保健福祉センターを拠点に、団体相互の理解や連携が深まり、多くの市民参加を得る中で、市民全体の保健・福祉・医療に対する意識の向上に繋がった。			
		順調に進んでいる	評価				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)		標	67,909 / 62,773	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		安心して福祉サービスを利用できる環境づくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	社会福祉協議会に委託する生活困窮者自立支援事業の相談窓口を活用し、「福祉なんでも相談窓口」を開設し、福祉全般の多様な相談を受け、関係機関等との連携により対応した。地域福祉力強化推進事業により、社会福祉協議会にCSWを配置し、地域における多様な複合的な困りごとなどに対し相談・支援を実施した。		福祉全般のサービスの情報提供を含め、複合的かつ多様な相談に対応できる総合窓口の設置によって、よりきめ細かい福祉サービスの充実に繋がった。CSWの配置により、各種福祉制度の狭間の問題にも積極的に地域に出向いて介入し支援するようになったが、今度、包括的に事業を推進できる体制強化が必要である。			
		順調に進んでいる	評価				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)		標	67,909 / 62,773	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		地域での助け合い・支え合いのしくみづくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	社会福祉協議会との連携により、高齢者を対象とした各地域の「ふれあいいきいきサロン」活動を支援するとともに、サロン活動の充実を目的としたサロン交流会を実施した。社会福祉協議会との連携により、まちづくり協議会を対象に、地域での助け合いや支え合いの活動に関するボランティア講座(ちょこボラ)を開催した。		「ふれあいいきいきサロン」は、11か所の新規サロンが立ち上がり、全91か所となり、地域でのサロン活動の充実に繋がった。ボランティア講座の開催を契機に、昼生地区に続き、井田川北地区でも、「ちょこボラ」の立ち上げに向け、活動が開始されるなど、地域福祉活動の拠点やしくみづくりが進んだ。			
		順調に進んでいる	評価				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	18001	地域福祉力強化推進事業		主	8,000 / 8,000	A	B
事業以外の取組	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)		標	67,909 / 62,773	A	A
	内容					活動	成果

施策の方向		低所得者への支援と自立支援の推進					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	社会福祉協議会に委託した生活困窮者自立支援事業(新規124件、延べ相談548件)により、相談者が抱える課題の解決に向け、伴走的な支援を行った。子どもの貧困にかかる実態・実情を把握するため、子どもがいる世帯に対する全体調査や児童扶養手当等の受給者を対象とした支援利用者調査をアンケートにより実施し、両者の対比を行った。		生活困窮者自立支援事業による相談件数は増加しており、生活困窮者の自立や家計相談支援により、経済的困窮や社会的孤立の解決に効果があった。子どもの貧困に関する実態調査から、経済的・文化的な貧困層の実態が把握でき、次期、子ども子育て支援事業計画に反映し貧困の連鎖の防止に繋げていく。			
		順調に進んでいる	評価				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17040	生活困窮者自立支援事業(自立相談支援事業等)		主	14,825 / 14,077	A	B
事業以外の取組	内容					活動	成果